

# うちなむん

## 沖縄の地場産品

沖縄の水産業は全国に比べて沖合・遠洋漁業の割合が低く、経営規模も零細となっている。一方でモズクやクルマエビといった海面養殖業は盛んに行われており、亞熱帯地域の特性を生かした水産業が展開されている。

しかし、全国でも有数にシェアを誇っているものもある。

①はじめに

①この財務部では沖縄の経済動向について調査しているが、果たして沖縄の経済全体についてどれだけ知っているだろうか、何か見落としているものはないだろうか、という思いがあった。消費や観光、公共事業の動向等、基本的なものは押さえある。しかし、広い意味での産業活動については必ずしも調査が行き届いていないように思われた。その理由はいくつかあるが、最も大きな要因は、核となる業種がなく、小さな企業（場合によっては個人）によって多岐にわたる商品が作られているため、そもそも調査することが難しいということである。

しかし、近年の健康ブーム等に乗って、ウコンなど急速に伸びているものもある。また、伝統工芸品についても、後継者難等の問題をかかえつつ、それを乗り越えようとしているものが多数ある。加えて、「コーヤー等、農水産品の

分野でも、沖縄の風土、気候を生かし、全国でも有数にシェアを誇っているものもある。

それらは、現状では、沖縄の「地場産業」と呼ぶには、企業等の集積、生産額等の面で足りず、沖縄のなかに占めるウェイトも小さい。しかし、将来、幾つかは「地場産業」として、沖縄経済のなかで確固たる地位を占める可能性を有しているように思える。

そこで、「うちなむん」地場産業と課題をとりあげてみようと思つて企画したのが本調査である。初回調査のため調査不足も多々あるのではないかと思う。忌憚のない批判をいただき、次回の調査にかかるとしていた。

ここでは、紙面の都合上、主な概要の紹介にとどめるが、「うちなむん」は、財務部のホームページに掲載してあるので、是非ともご覧になっていただきたく。

**財務部ホームページ**  
<http://ogb.go.jp/okizaimu>

### II 概要

#### (農産物)

沖縄県では、基幹作物であるさとうきびのほか、スイカ、マンゴー、きななど亜熱帯地域の特性を生かした農業が展開されているほか、畜産も盛んに行われている。

また、近年、「健康」がキーワードの一つとなっているが、それを背景に「コーヤー、ウコンをはじめとした沖縄の野菜が全国的に注目を浴びており、それらの生産高

が増加しており、貴重な雇用の場を提供している。

しかし、農業を取り巻く環境は、生産者の高齢化や担い手の減少、夏場の台風、冬場の日照不足など

のため、年間を通じた安定的な生産出荷体制の確立が課題となつて

いる。さらに優良、オリジナル品種の開発・普及、低コストの施設の整備が課題とされている。

また、「沖縄発」の産物に共通

の特徴が三十二品目とあること

で十品目となつており、全国での鐵物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどが小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。

IV 最後に、「じゅあじむー」へ

### IIIまとめ

#### (加工食品)

近年の沖縄ブームを受けて全国のデパート等で沖縄物産展や沖縄フェアの開催が増えているといふ。

特に沖縄サミットの開かれた2000年は内外の関心の高さから沖縄に関することが頻繁にメディアで紹介された年でもあり、各企業からは本土向けの出荷が伸びている声が聞かれた。

しかし、食料品製造業界の方が異口同音に指摘されたことは、観光客の立ち寄る土産物屋に県外からの移入された商品が多数陳列さ

れており、大好きな特徴として大量生産による値段の安さが挙げられる。

このように利益率を追求する商品が大勢を占めるようになると、観光土産へのマイナスイメージを与えかねないとの指摘がある。値段の安さでは引けをとる県内の商店をのぞいて感じた数字)の商品に製造元が記入されておらず、販売元または発売元の記入があるのみであった。これらの菓子の多くは、パッケージに各地の名前を入れることによって全国各地で売られており、大きな特徴として大量生産による値段の安さが挙げられる。

このように利益率を追求する商品が大勢を占めるようになると、観光土産へのマイナスイメージを与えかねないとの指摘がある。値段の安さでは引けをとる県内の商店をのぞいて感じた数字)の商品に製造元が記入されておらず、販売元または発売元の記入があるのみであった。これらの菓子の多くは、パッケージに各地の名前を入れることによって全国各地で売られており、大きな特徴として大量生産による値段の安さが挙げられる。

このように利益率を追求する商品が大勢を占めるようになると、観光土産へのマイナスイメージを与えかねないとの指摘がある。値段の安さでは引けをとる県内の商店をのぞいて感じた数字)の商品に製造元が記入されておらず、販売元または発売元の記入があるのみであった。これらの菓子の多くは、パッケージに各地の名前を

入れることによって全国各地で売られており、大きな特徴として大量生産による値段の安さが挙げられる。

沖縄県が将来も観光で生きていかなければならないのであれば、この問題を解決していくことが今後の大問題となる。

沖縄県では染織物、陶器及び漆器など十三品目が指定を受けている。都道府県別にみると京都府の十七品目に次いで新潟県と並び全国二位の指定数となつていている。また、特に織物の指定品目は沖縄県だけで十品目となつており、全国での織物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどの小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。

IV 最後に、「じゅあじむー」へ

沖縄県では染織物、陶器及び漆器など十三品目が指定を受けている。都道府県別にみると京都府の十七品目に次いで新潟県と並び全国二位の指定数となつていている。また、特に織物の指定品目は沖縄県だけで十品目となつており、全国での織物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどの小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。

IV 最後に、「じゅあじむー」へ

沖縄県では染織物、陶器及び漆器など十三品目が指定を受けている。都道府県別にみると京都府の十七品目に次いで新潟県と並び全国二位の指定数となつていている。また、特に織物の指定品目は沖縄県だけで十品目となつており、全国での織物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどの小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。

IV 最後に、「じゅあじむー」へ

沖縄県では染織物、陶器及び漆器など十三品目が指定を受けている。都道府県別にみると京都府の十七品目に次いで新潟県と並び全国二位の指定数となつていている。また、特に織物の指定品目は沖縄県だけで十品目となつており、全国での織物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどの小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。

IV 最後に、「じゅあじmuー」へ

沖縄県では染織物、陶器及び漆器など十三品目が指定を受けている。都道府県別にみると京都府の十七品目に次いで新潟県と並び全国二位の指定数となつていている。また、特に織物の指定品目は沖縄県だけで十品目となつており、全国での織物指定が三十二品目であることが伺われよう。

しかし、沖縄県の伝統工芸産業は、県内外から高い評価を受けており、そのものの、依然としてそのほとんどの小規模・零細企業のため経営基盤が脆弱であり、後継者の不足、原材料確保難、流通及び経営の近代化の遅れ等様々な問題を抱えている。このほか、移輸入類品との競合など新たな問題も浮上しており、また、様々な分野の有機的な組合、協力が不可欠と思われる。